

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2018.7) 平成29年度:107.

化学療法前の予期的悪心・嘔吐に関わる心身の関係性

播本 史織

化学療法前の予期的悪心・嘔吐に関わる心身の関係性

旭川医科大学病院 5階東ナースステーション 播本史織

【目的】

本研究は入院時の患者の心身の状態と、予期性悪心・嘔吐の関係性を明らかにすることを目的とする。

【方法】

がん化学療法を目的として入院する患者のうち初回以外の患者に対し、緩和ケアスクリーニングのため院内で運用されている記名自記式調査「からだど気持ちの症状に関する質問票」により化学療法前の「気分の落ち込み」「不安」などの計9項目の心身の症状を伺った。また、本研究独自の無記名自記式調査用紙で化学療法直前と過去の化学療法後の嘔吐、悪心、食欲不振の症状を伺った。そのうち予期性の症状がある群、ない群に分けて χ^2 検定を用いてからだど気持ちの症状との関係について統計的に比較検討した。

【結果】

回答数は17名、年齢は30代～70代で全員女性であった。17名中予期性悪心、嘔吐症状があった者はいなかった。予期性に食欲不振の症状のある者は6名であった。予期性に食欲不振の症

状のある群6名とない群11名に分けて「気分の落ち込み」「不安」の有無との関係について χ^2 検定を行い、いずれも有意差はなかった。予期性に食欲不振の症状がある者のうち全員が過去の化学療法後の症状で悪心を経験しており、過去の悪心が現在の食欲不振の症状に関連していることが示唆された。(P<0.05) また、予期性に食欲不振の症状がある者は質問票の合計点数が高いほど症状がみられていた。

【考察】

治療前に明らかな予期性悪心・嘔吐を経験している者はいなかったが食欲不振を訴えている者はおり、過去の化学療法での悪心の経験が影響していると考えられた。過去の悪心の経験や心身の状況によって予期的な症状が出現しやすいため、当院で使用している「からだど気持ちの症状に関する質問票」を用いながら、からだど気持ちに何らかの不調を感じるかどうかを幅広く聞くことで患者の心身の状況、治療経験を踏まえて予期性の症状を予測して予防的介入に繋げることが重要となる。